

地方創生関連事業 効果検証シート

平成 29 年 11 月 6 日(月)

佐野市まち・ひと・しごと創生懇談会

地方創生加速化交付金事業 効果検証シート

事業名	訪日ムスリムインバウンド推進事業～Muslim Welcome Town SANO～												
担当課	観光立市推進課	事業実施年度	平成28年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	新しい人の流れをつくる	実施方法	直営						
事業の概要	<p>近年増加の一途をたどる訪日外国人、中でもイスラム教徒（ムスリム）を佐野市へ誘客することを促進し、観光消費額の向上を目指すものである。そのための受け入れ態勢整備として飲食店や宿泊施設の確保のため、ムスリム理解やハラール（イスラム法上許された食材等）対応に係るセミナーの開催やハラール認証支援を行い、佐野市がムスリムに対するおもてなしの準備ができていることをムスリムの多い東南アジアへ積極的な情報発信を行う。また、旅行会社との連携により、日本での観光ルートに佐野市を加えられるための開発に向けた取り組みを進める。</p>					予算状況	<table border="1"> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>27,159</td> </tr> <tr> <td>交付金額（千円）</td> <td>27,159</td> </tr> <tr> <td>一般財源（千円）</td> <td>0</td> </tr> </table>	総事業費（千円）	27,159	交付金額（千円）	27,159	一般財源（千円）	0
総事業費（千円）	27,159												
交付金額（千円）	27,159												
一般財源（千円）	0												
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成28年度 目標値	平成28年度 実績値	達成状況の説明								
	KPI①	年間観光入込客数（千人）	8,700 千人	8,700 千人	この事業の効果もあり、目標値に達することができた。								
	KPI②	外国人宿泊数（人）	450 人	674 人	クリケットの世界大会による選手や関係者の宿泊者に加え、この事業によるインドネシアからの宿泊者により目標値を上回った。								
	KPI③	ハラール認証取得事業所数（件）	10 件	1 件	ハラール認証取得事業所は1件と目標を下回ったが、この事業の効果によりムスリムに対応する事業所数は9件となった。								
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ムスリム対応理解促進事業所向けセミナーの実施（4回） ・インターネットによるプロモーション動画作成と公開（2本） ・ムスリム向け英語版観光ガイドブック作成（5万部） ・インドネシアでの海外旅行博への出展（2回） ・国内展示会「ハラールエキスポジャパン」への出展 ・ムスリム向けインターネットサイトへの広告掲載とFacebookの運用 ・インドネシア旅行者によるモニターツアーの実施（3回） ・在日ムスリムとの情報発信イベント「ムスリムソン」の開催 			主な効果	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー開催による延べ参加者数52人 ・ファミトリップを含めインドネシアから88人送客。 ・プロモーション動画再生回数4630回 ・インターネット閲覧回数〇〇回 ・協議会会員数が〇〇人増加 ・ハラール対応店舗が〇〇店舗 								
取組の検証	改善余地の検証	昨年度は1年という限られた時間（加速化交付金）の中で、本市がムスリムの受け入れに動きだすためのきっかけ作りを行ったが、市民をはじめ地元の理解が図り切れていないことや、会員店舗においても英語表記やハラール対応の改善余地がまだある。また、旅行会社との提携業務の継続や、広域での取り組み強化など誘客のための戦略を高めることも必要である。											
	今後の方針について	今後は行政と協議会が連携を強固にし、市民への広報活動や事業者向けセミナー開催、会員店舗での更なるハラール対応等の受け入れ態勢の強化を基礎としたうえで、広域ルートを視野に入れた誘客を旅行会社とともに作り上げていく。											

地方創生加速化交付金事業 効果検証シート

事業名	スポーツを核とした地方創生推進事業（市：ツール・ド・とちぎ参画事業）						
担当課	スポーツ立市推進課	事業実施年度	平成28年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営
事業の概要	栃木県と県内全市町の連携事業 国内初の取組となる県内全域を舞台とした国際レース「ツール・ド・とちぎ」の開催を契機に、県と県内全市町が連携した「自転車によるまちづくり」を進め、一層の観光誘客、地域活性化につなげていく。					予算状況	総事業費（千円） 800 交付金額（千円） 800 一般財源（千円） 0
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成28年度 目標値	平成28年度 実績値	達成状況の説明		
	KPI①	年間観光入込客数（千人）	(対前年比増) H27 8,554 千人	8,700 千人	この事業の効果もあり、目標値に達することができた。		
	KPI②						
活動状況	[主催] 特定非営利活動法人ツール・ド・とちぎの会 [主管] ツール・ド・とちぎ実行委員会 [大会期間] 平成29年3月31日から4月2日 3日間 [佐野市該当] 平成29年3月31日 (日光だいや川公園～足利市総合運動公園) ○佐野市の業務 ・大会負担金支払（80万円） ・交通立哨等（佐野市職員106名、県職員99名、企業団体80名、一般18人、計303人） ・広報：平成29年3月1日号広報さのと同時に大会開催、交通規制チラシ配布			主な効果	・約66,000人の観客動員（全体） ・自転車先進県とちぎの発信や観光誘客に一定の成果 ・県全体経済波及効果：約10億9千万円（観客消費、大会運営費、関係者消費等から算出） ・多くのボランティアが参加し、スポーツを支える意識の高まり。		
取組の検証	改善余地の検証	今大会では、年度末最終日であったこと、本市を通過するコース設定だったこともあり、効果的な活用方法が検討できなかった。					
	今後の方針について	現在、自転車によるまちづくりの取り組みを実施していないが、本事業をどう本市の地方創生推進に役立てていけるか検討する。					

地方創生推進交付金事業 効果検証シート

事業名	「クリケットのまち」連携強化によるスポーツツーリズム推進事業（市：クリケットのまち推進事業）							
担当課	スポーツ立市推進課	事業実施年度	平成 28 年 12 月から 平成 29 年 3 月まで	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営	
事業の概要	クリケットによるまちづくりを推進するにあたり必要となる、国外マーケット規模や経済効果、国内認知度等の基礎的な情報を把握するための調査を実施した。					予算状況	総事業費（千円）	5,000
					交付金額（千円）		2,500	
					一般財源（千円）		2,500	
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	達成状況の説明			
	KPI①	外国人宿泊数(人)	541 人	674 人	この事業の効果もあり、目標値に達することができた。			
	KPI②	年間観光入込客数(千人)	9,174 千人	8,700 千人	平成 32 年度までの事業期間中に市の目標でもある入込客数 1000 万人を目標値と定めたが、28 年度においては達成することはできなかった。			
	KPI③	創業件数(件)	25 件	22 件	28 年度は基礎的情報を調査する準備期間であったため KPI に影響を与えることはできなかった。			
活動状況	<p>調査概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界におけるクリケットの状況（文献調査） 国内における認知度調査（アンケート：10 代～50 代 男女 600 人） 国内プレーヤーへのアンケート <p>業務委託名 佐野クリケット調査事業業務委託 契約の相手 株式会社 JTB 関東法人営業両毛支店 契約額 4,989,600 円 委託期間 平成 29 年 1 月 18 日から平成 29 年 3 月 24 日</p>			主な効果		<p>下記について、把握することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界における人気の高さ 10 代、20 代男性の関心度の高さ プレーヤーが望んでいる施設、設備等。 <p>この結果をもとに、平成 29 年度地方創生推進交付金事業として「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトを計画、申請した。</p>		
取組の検証	改善余地の検証		より地方創生を推進することができると思う事業計画を作成し、国へ申請した。					
	今後の方針について		上記計画が国に認められたことから、着実に実行していく。					

地方創生推進交付金事業 効果検証シート

事業名	地域の“芽”をパパの“目”で育てる「佐野パパプロジェクト」												
担当課	都市ブランド推進室	事業実施年度	平成 28 年 10 月から 平成 29 年 3 月まで	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営						
事業の概要	誰よりも地元（佐野市）を知り尽くし、地元を愛しているパパたちが本事業の主体となるが、このパパたちの人材育成を進めながら新たな地域産品等の発掘から開発、その育成プランを策定し、佐野ら一めん、いもフライに続く佐野市を代表できる商品として積極的に地域外に向けて販売することで、収益を生み出し雇用を創出させるとともに、佐野市の認知度向上や観光誘客を図る。					予算状況	<table border="1"> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>19,332</td> </tr> <tr> <td>交付金額（千円）</td> <td>9,666</td> </tr> <tr> <td>一般財源（千円）</td> <td>9,666</td> </tr> </table>	総事業費（千円）	19,332	交付金額（千円）	9,666	一般財源（千円）	9,666
総事業費（千円）	19,332												
交付金額（千円）	9,666												
一般財源（千円）	9,666												
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	達成状況の説明								
	KPI①	パパグループ活動回数(回)	12 回	7 回	コアメンバーの決定が年度末に近い2月であったため								
	KPI②	年間観光入込客数(千人)	9,174 千人	8,700 千人	平成 30 年度までの事業期間中に 972 万人まで入込客数を増加させる目標値と定めたが、28 年度においては達成することはできなかった。								
	KPI③	地域活性化プランのプラン(もしくは商品アイテム等)実行検討数(本)	0 本	0 本	来年度以降実施予定								
	KPI④												
活動状況	10 月：事業開始、事業の説明とセミナーへの参加を企業、PTA、団体、個人等に行った。 11 月、1 月：セミナーの開催 2 月：コアメンバーの決定、定期的な打合せの開始 3 月：セミナーの開催			主な効果	セミナー参加時の意欲度や勧誘時の反応、地域での活動状況等を考慮してコアメンバーを選定したため、プロジェクトに対する理解度と意欲は高い方が集まった。 コアメンバーの初期の集まりにおいては、事業の目的と最終目標を共有し、同じように地域で活動する方をセミナーにおいて招聘して研修することによって、今後の事業への継続的参加と目標達成への共通認識を図ることができた。								
取組の検証	改善余地の検証	メンバー拡大の有無や時期の検証が必要											
	今後の方針について	地域資源による新産品の開発と商品事業化に向け、メンバーの意見を最大限に尊重してプロジェクトを進める。											